

協議会提言 | 3つのテーマに基づく新施設整備、エリア整備、周辺整備の考え方の整理（案）

新施設 | エコプラザ・エコセンター

3つのテーマ	3つのテーマから求められる機能	整備の考え方		意見		
		キーワード	必要な空間	(施設・設備)	(ソフト・プログラム)	
低炭素社会モデル	<p>【エコセンター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃熱を可能な限り再利用するエネルギー供給施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ発電によるエネルギー供給 ・太陽光発電など自然エネルギー利用 ・建物(壁面・屋上)緑化 		<ul style="list-style-type: none"> ・分散化する処理施設のショーケース、クリーンサロン ・電気自動車のエネルギーステーション ・太陽光発電、風力発電 ・公用車やムバス、パッカー車の電気自動車化 ・クリーンセンター北側外壁・屋根の観客席利用 ・地下利用による建物上部の解放(かごしま環境未来館「緑の台地」のように) 		
	<p>【エコプラザ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境啓発の拠点(低炭素社会に向けた行動を促す場) ・エコセンターに持ち込まれるごみを通じて、社会を見直し、地球を感じ、低炭素化に向けた行動を促す。 ・ここで行われること全てが環境啓発機能を有し、その全ての基となる素材は、エコセンターに持ち込まれたごみである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学び(ごみから学ぶ) 	<p>【基本空間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素材になるごみを受け入れるスペース 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみから学ぶスペース <ul style="list-style-type: none"> ・知る ・触れる ・体験する ・表現する 	<ul style="list-style-type: none"> ・見学者コース、見学者ホール ・足湯・岩盤浴 ・古紙を利用したトイレトーパー製造機 ・子どもも利用できるリサイクル工房 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ処理やリサイクルの仕組みが楽しみながら理解できる展示施設や見学コース ・ごみを中心とした様々な活動を地域通貨で行う ・エコ関係のネットワークの拠点 ・脱焼却・脱廃棄に向けた知恵を集める仕組み ・世界にも発信できる拠点 ・生物多様性・絶滅危惧種などを考える拠点 ・楽しく学べる、体験できる場所 ・見て・感じて分かりやすい ・車いすでも見学しやすい ・いつも見学ができる ・いやしのスポット
		<ul style="list-style-type: none"> ・創造(ごみから新たな価値あるものをつくる) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみを素材にかえるスペース ・仕分ける ・解体する ・きれいにする ・加工する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみから新たな価値あるものをつくるスペース ・形を考える ・素材を加工する ・つくる ・展示する・販売する 	<ul style="list-style-type: none"> ・再生ものづくり機能 ・再生ガラス製品 ・裂き織り ・金継ぎ ・プラスチック袋再生製品 ・リサイクル品を売る場所 ・リサイクル工房+研究所 	<ul style="list-style-type: none"> ・焼却の場から再生産の場へ発想の転換 ・ごみを持ち込むだけの施設ではなく、持ち出すものもある施設 ・クリエイターやアーティストの活用 ・リサイクルの機会を増やし、リサイクルショップを併設
	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション(ごみを媒介に対話を生み出す) 	<ul style="list-style-type: none"> ・素材を置くスペース ・整理する ・保管する 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを促すスペース ・座って話ができる ・思いついたことを書いたり、描いたりすることができる ・誰もが気軽に来られる ・お茶が飲める ・パンを食べられる ・ハイハイができる ・自転車を解体してメンテナンスできる 	<ul style="list-style-type: none"> ・集会施設・会議室 ・ホール・共有スペース ・集まって何かができる空間 ・カフェ・レストラン ・余熱利用パン工房 ・フリーマーケットができる場所 ・日常的に利用するスペース ・子どもの自由な遊び場 ・誰でもトイレ 	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみ堆肥を使った野菜やハーブを利用 ・地域に開かれたオープンな施設、市民にとって入りやすい場所 ・地域住民が気軽に利用できるカフェや小さい子ども連れで利用できるスペース ・安くて子どもも入りやすいレストラン ・賞味期限切れのお店 ・交流スペース、遊び、勉強などできる場所 ・フリーマーケット ・クリーンセンターの蒸気を利用したランドリー 	
地域力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・地域力を結ぶ核(環境改善、社会の改善、経済の促進に、地域力で取り組む場) 	<ul style="list-style-type: none"> ・集う、参加する、働く、支える(地域力を集めて、地域力で運営を担う) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな市民施設の建設により市民の様々な活動に寄与し、新たなライフスタイルや活動の“後押し”をする ・緑町コミュニティセンターと機能を補完しあう ・雇用の場の創出する 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民参加、情報発信の場 ・環境をテーマにした社会的起業、若者の就業支援 ・立地特性を生かした、障害者(児)等の雇用の場の創出 ・ローカルマネーを使った運営 		
まちづくりとの連携	<ul style="list-style-type: none"> ・景観形成への貢献 ・明るく開放的な施設づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・現施設より北側に寄らない施設配置 ・ごみ焼却施設というイメージ与えない建物デザイン ・煙突デザインの工夫 ・施設へのアクセスを容易にする工夫(外周道路と敷地の取り付けや出入り口の工夫) 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の公園と一体になった、明るく、入りやすい雰囲気建物 ・きれいな花を植える ・煙突の季節に合わせた飾り付け ・煙突の緑化(グリーンタワー) 			

エリア整備				
3つのテーマ	3つのテーマから求められること	整備の考え方		意見
低炭素社会モデル	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な緑化や自然エネルギー利用による環境に優しいまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> できる限り既存樹木を保存し、さらに緑を充実させる エリア全体で、自然エネルギーを積極的に利用する エリア全体で、エコ製品を活用する 		<ul style="list-style-type: none"> 今後造るものにエコセメント製品を使用 センターの周りに花の回廊を作ってほしい、緑のスペースの充実、まわりにお花(植物)を飾ってほしい。まわりに植物や花を植えてほしい。 現在ある野球場及びテニスコートの場所を、四季の花を觀賞できる公園にして、公園内の歩道は、車椅子でも通れる余裕をもつた道幅とし、武蔵野市の新名所とする。花を觀賞することは、子どもの情操教育につながり、全年齢層の癒しにもなると考えられる。また、市民の憩いの場、ふれあいの場となり、崩壊してしまった地域社会を復活させる効果も考えられる。
地域力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 新施設、緑町コミュニティセンター、緑町ふれあい広場、野球場、テニスコートが融合し、周辺地域のまちづくりの核となる 	<ul style="list-style-type: none"> 緑町コミュニティセンターとエコプラザの一体性を確保する 	<ul style="list-style-type: none"> 緑町コミュニティセンターのユニバーサルデザイン化(エレベーター設置、福祉車両の車寄せスペースなど) 緑町コミセンの防災性能の強化(エリア内への避難性の向上) <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 緑町コミュニティセンターとエコプラザの一体性確保(エコプラザから緑町コミセンに直接アクセスできる空間の確保) (考えられる方法:テニスコート部分の活用、空中回廊でつなく、引き屋でコミセンを近づける、とっかエコ) 駐車場・駐輪場の相互利用調整 	<ul style="list-style-type: none"> エレベーターを付けて欲しい 車椅子の来館者が増えてきた コミセン車止めの設置 コミセンの駐車場はいつもいっぱい テニスコートを都営住宅跡地に移して、コミセン周辺の環境を良くして欲しい 緑町コミセンを広げることは賛成だが、場所の移動は望まない 現施設敷地内でのコミュニティセンターの建設 緑町コミセンに会議室が足りない 屋内スポーツの練習場(バドミントン、卓球など)や駐車場を スカットコート
まちづくりとの連携	<ul style="list-style-type: none"> 景観形成、ユニバーサルデザインの採用、防災性能の強化による安全・安心・快適なまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺地域との一体性を確保する 防災拠点としての性能を高める 	<ul style="list-style-type: none"> エリア北側での緑による緩衝帯の設置 周辺からのアクセスを容易にする外周歩道の整備 ユニバーサルデザインによる外周歩道の拡幅整備 電線類の地中化による歩行者の安全性確保・防災性能の向上 自主防災の拠点となる機能を導入し、隣接する防災センターとの連携を強化 	<ul style="list-style-type: none"> 市役所北エリア側の歩道の拡幅 市役所側から北側に抜けられる遊歩道の設置 クリーンセンターと市役所と道を含んで、一体的にイベントができるスペースを創出する クリーンセンターの周りは歩きやすいそんな歩道 タクシー乗り場の併設など交通の利便性向上 トイレになるベンチ 野球場や現テニスコートの地下を駐車場やストックヤードなどとして利用 野球場地下 防災倉庫設置、防災拠点化 駐車場増設 野球場のイベント開放、子ども達の遊び場としての開放 自主防災組織が 24 時間体制で利用できる防災拠点の設置(耐震性・耐火性のある防災倉庫と集会場所)

周辺整備				
3つのテーマ	3つのテーマから求められること	整備の考え方		意見
低炭素社会モデル	<ul style="list-style-type: none"> 周辺地域全体で取り組むCO2排出削減 	<ul style="list-style-type: none"> 住民、企業、市の連携によるCO2削減(ここだからこそできる低炭素化の取り組み) 	<ul style="list-style-type: none"> CO2排出削減分をポイント化するなど、住民一人一人のCO2排出削減の取り組みを促進 地域特性(空間、施設立地、企業のノウハウ)を最大限利用して再生可能エネルギーを生産し、地域の公共施設に供給 新クリーンセンターの発電と、その他の再生可能エネルギーをネットワークし、効率的な供給を図る 防災拠点として、災害時のエネルギー供給にも対応 街路灯など周辺地域全体でエコ製品を活用する 	<ul style="list-style-type: none"> 市役所北エリアと緑町三丁目、NTT研究所を含む周辺一帯を、環境共生型の都市生活を実現するシンボルゾーンと位置づけて、それにふさわしい施設・まちづくりを行う。 新施設の周辺にある市役所、障害者総合センター、NTT研究所、保育園といった施設が立地する地域特性と、発電や余熱利用などの新施設が生み出す機能を組み合わせることで、単なる焼却施設にとどまらない付加価値を生み出します。 NTT研究所のIT技術を利用する。 発電を利用した電気自動車のエネルギーステーションを設置し、公用車やムーブスを電気自動車として運行する 街路灯を太陽エネルギーやクリーンセンターの発電により生み出された電気を利用したものとする 電気自動車の貸し出し(荷物を運ぶ、障害者、高齢者の送迎など) EVカーシェア スマートグリッド・スマートコミュニティの実証実験 住宅に「省エネ見える化装置(スマートメータ)」を試験導入
地域力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 「エコからエコへ」新クリーンセンターがエコでつなぐ周辺まちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの市民が使える魅力的で利便性の高い公共施設エリアをめざす(施設間相互の結びつきを強める) 既存の環境、資源、施設を効率よく利用し、ムダの少ない都市像を示す(地域力を最大限活用する) 	<ul style="list-style-type: none"> 新クリーンセンターと周辺施設相互を結ぶプログラムを導入 使い勝手が悪い管理など、地域力を阻害する要素を取り除く(機能を補完しあう、融通しあう、連携しあう) エコをテーマに市民、企業、行政等異なる主体が結びつくことで生まれる相乗効果を期待 施設間を行き来しやすい、移動環境の形成 <p>地域力で実現するエコなまちづくりに貢献する都営住宅跡地の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> 運動場の剪定枝葉を新施設で堆肥化し緑地に還元 体育館や保健センターの健康プログラムに足湯を組み込む 駐車場の相互利用調整により、新たなオープンスペースを生み出す コミセンだけでは不足している会議室を、他の施設の会議室の使い勝手を改善することで補完しあう(体育館、高齢者センター、市役所、パークタウン集会所、東学園など) NTT研究所資料室の常時一般開放、エコプラザとの連携 施設利用を高めるためのムーブスネットワークの改良 都営住宅未利用地(3,000坪)の活用(緑町コミセンの分館、集会施設、ホール等公共施設、北エリア内テニスコートのとっかエコ) 「周辺」の中に、都営住宅の未利用を入れて欲しい 緑を残すのもよいのだが、その上で住民還元として公共施設を立てて欲しい 少なくとも民間売却はして欲しくない 空地になると、都の運用区になる。市としては、都が公園を造って、さらに戦争歴史資料館にするよう要望をしている。 中島飛行機の変電所建物の保存
まちづくりとの連携	<ul style="list-style-type: none"> クリーンセンターを核とする周辺地域のまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 歩行者の安全性確保と地域に定着する自転車環境づくり 周辺地域全体の移動の円滑化による、マイカーに頼りすぎない、エコで健康的な生活の実現 <p>広域避難場所となる地域の防災性能を強化する</p> <p>ごみが持ち込まれる地域が最も美しいまちとなる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインによる歩道の整備、電線類の地中化 エコの代名詞である自転車走行環境の安全性向上 公共交通網の充実 エコカーの普及 <p>地域を分断し、災害時の避難を阻害する要因の除去(避難場所への安全な避難ルートの確保)</p> <p>公共空間への都市デザインの積極的な導入</p> <p>ごみ焼却施設があり、武蔵野の辺境の地というイメージを払拭する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 防災避難路として重要な市道41号線の電線類地中化、バリアフリー化、歩道設置 緑町商栄会前道路への大型車両の進入制限・速度制限 歩道を自転車を通らないようにする標識、表示(歩道縁石に標識設置、歩道上に文字・絵で表示) 市道240号線のバスルート延伸にあわせた歩道設置 自転車レーンの整備(中央通り、市道41号線、北エリア周辺道路、商店街周辺道路) 市役所北エリア側の歩道の拡幅 クリーンセンターの周りは歩きやすい そんな歩道 タクシー乗り場の併設など交通の利便性向上 バスルート見直し+横方向ルート(市道240号線バスルートの市役所側への延伸) 市道41号線から広域避難場所である中央公園への避難ルートの新設 市とNTT、URなどの事業者、自主防災組織との災害時の相互協力協定 クリーンセンター周辺は市役所、NTT 研究センター、中央公園、パークタウン一体が広域避難場所である。 防災センターを中心に災害時に拠点となる。 防災センター、NTT 研究センターとの連携 千川上水沿いの都市計画道路整備のあり方の検討とともに、遊歩道の整備や緑の管理について検討を行う。 市の資材置き場を撤去し、公園として整備する